

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月14日
【四半期会計期間】	第64期第3四半期（自平成28年10月1日至平成28年12月31日）
【会社名】	株式会社永谷園ホールディングス
【英訳名】	NAGATANIEN HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 永谷 泰次郎
【本店の所在の場所】	東京都港区西新橋二丁目36番1号
【電話番号】	03-3432-2511(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 松村 雅彦
【最寄りの連絡場所】	東京都港区西新橋二丁目36番1号
【電話番号】	03-3432-2511(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 松村 雅彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 第3四半期 連結累計期間	第64期 第3四半期 連結累計期間	第63期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	60,370	61,246	79,193
経常利益 (百万円)	3,025	3,848	2,828
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,520	2,125	1,265
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,454	2,627	516
純資産額 (百万円)	30,540	31,499	29,603
総資産額 (百万円)	69,565	91,176	71,092
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	42.27	59.13	35.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.8	34.6	41.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,296	1,391	3,235
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,767	12,290	5,475
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,160	10,965	2,112
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	7,557	8,066	8,075

回次	第63期 第3四半期 連結会計期間	第64期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	34.90	30.84

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当社グループは、当社と連結子会社32社及び非連結子会社3社、持分法適用関連会社2社、持分法非適用関連会社2社により構成されており、和風即席食品及び洋風・中華風即席食品の製造販売、フリーズドライ食品・パン・菓子・テイクアウト寿司の製造販売並びに関連商品の販売を主たる業務としております。

当第3四半期連結累計期間における、各報告セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

### (海外食料品事業)

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、Broomco (3554) Limitedの全株式を株式会社産業革新機構と共同にて取得し、連結子会社としたことにより14社増加しております。これに伴い、当社グループの業務として、フリーズドライ食品・パンの製造販売業務が新たに加わっております。

なお、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 [ 経理の状況 ] 1 [ 四半期連結財務諸表 ] [ 注記事項 ] (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて変更があった事項は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

また、以下の見出しに付された項目番号は、前事業年度の有価証券報告書における「第一部 [ 企業情報 ] 第2 [ 事業の状況 ] 4 [ 事業等のリスク ] 」の項目番号に対応したものです。

#### (7)海外での事業展開

当社グループは、海外（主にアメリカ合衆国、英国及び中華人民共和国）に現地法人を置いて、食料品の製造及び販売、直営店の運営、フランチャイズ展開その他の事業活動を行っております。これらの海外への進出には、予想しない法律または規制の変更、政治情勢の悪化、為替レートの変動等その他の要因により、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### 2【経営上の重要な契約等】

当社は、平成28年12月2日開催の取締役会において、Broomco (3554) Limitedの全株式を株式会社産業革新機構と共同にて取得することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

詳細は、「第4 [ 経理の状況 ] 1 [ 四半期連結財務諸表 ] [ 注記事項 ] ( 企業結合等関係 ) 」に記載のとおりであります。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府の経済政策により企業収益や雇用環境に緩やかな回復傾向が見られたものの、節約志向による個人消費の伸び悩みや少子高齢化による市場構造の変化、英国のEU離脱問題、アメリカ合衆国大統領選挙による為替や株価の急激な変動等もあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当社グループは、「企業戦略の充実」と「新価値提案力の更なるアップ」を経営課題として企業活動を行ってまいりました。平成28年12月には、英国を本拠とし、世界各地にグローバルな販売チャネルと生産拠点を持つフリーズドライ食品及びパン製品メーカーであるChaucer Food Groupの親会社であるBroomco (3554) Limitedの全株式を株式会社産業革新機構と共同で取得いたしました。今後は、Chaucer Food Groupの海外における豊富な経営資源と当社グループが長年培ってきた製造ノウハウを融合させることで、国内外において新しい事業領域の拡大・強化に取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高612億46百万円（前年同期比1.5%増）となりました。利益面につきましては、生産の効率化や販管費の減少等により、営業利益36億63百万円（同23.7%増）、経常利益38億48百万円（同27.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益21億25百万円（同39.8%増）となりました。

なお、Broomco (3554) Limitedにつきましては、当第3四半期連結会計期間末に連結の範囲に含めておりますが、当第3四半期連結累計期間における四半期連結損益計算書への影響はありません。

また、セグメント区分につきましては、従来の報告セグメントである「食料品事業」を、「国内食料品事業」と「海外食料品事業」とに区分しております。

以下、セグメントの状況は次のとおりであります。

#### 国内食料品事業

永谷園では、お茶づけ商品において、お客様からのご要望にお応えし、かつて約30年にわたり実施していた「東海道五拾三次カード」の封入を19年振りに復活するとともに、「東海道五拾三次カード」フルセットが当たるキャンペーンを実施いたしました。さらには、遠藤閑を起用した新CMを放映するなど積極的な販促活動を展開いたしました。

新商品では、平成28年8月に発売した「生みそタイプみそ汁 あさげ 減塩 徳用10食入」が、塩分控えめというコンセプトでご好評をいただき、好調に推移いたしました。

また、株式会社日本食糧新聞社が主催する平成28年度食品ヒット大賞において、長年お客様のご支持をいただいている「煮込みラーメン」が「ロングセラー賞」を受賞いたしました。

藤原製麺では、永谷園との共同開発商品である「1杯でしじみ70個分のちからラーメン塩味2人前」と人気ラーメン店監修の「ラーメン山岡家 プレミアム塩とんこつラーメン2人前」が、平成28年8月の発売以降も順調に推移し売上に貢献いたしました。

以上の結果、国内食料品事業の売上高は531億50百万円（前年同期比1.9%増）となりました。

#### 海外食料品事業

上記に記載しておりますBroomco (3554) Limitedの売上高は、平成30年3月期第1四半期連結会計期間より計上されることとなります。

#### 中食その他事業

麦の穂グループでは、「ピアードパパ」において、月替りの限定シュークリーム「渋皮マロンシュー（10月）」「焼きいもシュー（11月）」等が好調に推移し、売上に貢献いたしました。また、新規業態として、シュークリーム専門店の技術を活かした新しい美味しさをコンセプトとした新ブランド「ピアードパグランド」を阪急百貨店と共同で立ち上げ、平成28年11月に阪急百貨店うめだ本店にオープンいたしました。

以上の結果、中食その他事業の売上高は80億96百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、投資活動による現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の減少額が、営業活動及び財務活動による資金の増加額を上回ったことにより、8百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末の資金残高は、80億66百万円となりました。

##### 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加額は13億91百万円（前第3四半期連結累計期間は22億96百万円の増加）となりました。これは主に、売上債権の増加及び法人税等の支払があったものの、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上、たな卸資産の減少並びに未払金及び未払費用の増加があったことによるものです。

##### 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少額は122億90百万円（前第3四半期連結累計期間は17億67百万円の減少）となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出があったことによるものです。

##### 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加額は109億65百万円（前第3四半期連結累計期間は11億60百万円の減少）となりました。これは主に、社債の償還及び長期借入金の返済による支出があったものの、短期借入金及び社債の発行並びに長期借入金による資金調達があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

1) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様のご決定に委ねられるべきだと考えております。

ただし、株式の大規模買付提案の中には、たとえばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社グループの価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。

そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者の責務として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行う必要があると考えております。

2) 基本方針の実現に資する取組みについて

創業以来、当社及び当社グループは創意と工夫で他にはない優れた価値を持つ商品やサービスをお客様にお届けしようと努力してまいりました。その結果、今日の「永谷園ブランド」を確立することができました。そして、「永谷園ブランド」を支持して下さるお客様の期待に応えるためにも、当社及び当社グループは常に新しい価値を提供し続けてまいります。そのために、これまでの取組みをいっそう強化するとともに、健康感のある素材に着目した商品や海外展開など新たな市場における「永谷園ブランド」の提供及び新たな価値の提供にチャレンジしてまいります。

これらの課題を着実に実行することで、「日本になくなくてはならない会社」になることを目指してあらゆる面で進化し、様々なステークホルダーとの良好な関係を維持・発展させ、当社及び当社グループの企業価値、ひいては株主共同の利益の向上に資することができると考えております。

3) 当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（以下「本プラン」といいます）の内容（基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み）

本プランの概要につきましては、以下のとおりです。なお、本プランの詳細につきましては、当社ホームページに掲載されている平成26年5月15日付「当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）の継続について」をご参照ください。

（当社ホームページ：[http://www.nagatanien-hd.co.jp/ir/library\\_brief\\_note.html](http://www.nagatanien-hd.co.jp/ir/library_brief_note.html)）

(1) 本プランに係る手続き

対象となる大規模買付等

本プランは当社株式等の買付け又はこれに類似する行為（ただし、当社取締役会が承認したものを除きます。係る行為を、以下「大規模買付等」といいます）がなされる場合を適用対象といたします。大規模買付等を行い、又は行おうとする者（以下「買付者等」といいます）は、予め本プランに定められる手続きに従わなければならないものといたします。

「意向表明書」の当社への事前提出

買付者等におきましては、大規模買付等の実行に先立ち、当社取締役会に対して、当該買付者等が大規模買付等の際に本プランに定める手続きを遵守する旨の誓約文言等を記載した書面（以下「意向表明書」といいます）を当社の定める書式により日本語で提出していただきます。

#### 「本必要情報」の提供

上記の「意向表明書」をご提出いただいた場合には、買付者等におきましては、当社に対して、大規模買付等に対する株主の皆様のご判断のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます）を日本語で提供させていただきます。

ただし、買付者等からの情報提供の迅速化と、当社取締役会で延々と情報提供を求めて情報提供期間を引き延ばす等の恣意的な運用を避ける観点から、この情報提供期間の上限を「意向表明書」受領から最大で60日間に限定し、仮に本必要情報が十分に揃わない場合であっても、情報提供期間が満了した時は、その時点で直ちに取締役会評価期間（にて後述いたします）を設定するものいたします（ただし、買付者等から、合理的な理由に基づく延長要請があった場合には、必要に応じて情報提供期間を延長することがあります）。

また、当社取締役会は、買付者等による本必要情報の提供が十分になされたと認めた場合には、その旨を買付者等に通知（以下「情報提供完了通知」といいます）するとともに、速やかにその旨を開示いたします。

#### 取締役会評価期間の設定等

当社取締役会は、情報提供完了通知を行った後又は情報提供期間満了後、その翌日を開始日として、大規模買付等の評価の難易度等に応じて、当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案のための期間（以下「取締役会評価期間」といいます）として設定し、開示いたします。

当社取締役会は、取締役会評価期間内において、必要に応じて適宜外部専門家等の助言を得ながら、買付者等から提供された本必要情報を十分に評価・検討し、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上の観点から、買付者等による大規模買付等の内容の検討等を行うものいたします。当社取締役会は、これらの検討等を通じて、大規模買付等に関する当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、買付者等に通知するとともに、適時かつ適切に株主の皆様を開示いたします。また、必要に応じて、買付者等との間で大規模買付等に関する条件・方法について交渉し、さらに、当社取締役会として、株主の皆様へ代替案を提示することもあります。

#### 対抗措置の発動に関する独立委員会の勧告

独立委員会は、取締役会評価期間内に、上記の当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案と並行して、当社取締役会に対して対抗措置の発動の是非に関する勧告を行うものいたします。

ただし、本プランに規定する手続きが遵守されている場合であっても、当該買付け等が当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうものであると判断される場合は、本対応の例外的措置として、対抗措置の発動を勧告することがあります。

#### 取締役会の決議

当社取締役会は、上記に定める独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、係る勧告を踏まえて当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上という観点から速やかに、相当と認められる対抗措置の発動又は不発動の決議を行うものいたします。

当社取締役会は、上記の決議を行った場合には、その内容が対抗措置の発動であるか不発動であるかを問わず、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、速やかに情報開示いたします。

#### 対抗措置の中止又は発動の停止

当社取締役会が上記の手続きに従い対抗措置の発動を決議した後又は発動後においても、( )買付者等が大規模買付等を中止した場合又は( )対抗措置を発動するか否かの判断の前提となった事実関係等に変動が生じ、かつ、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上という観点から発動した対抗措置を維持することが相当でないと考えられる状況に至った場合には、当社取締役会は、独立委員会の勧告に基づき、又は勧告の有無若しくは勧告の内容にかかわらず、対抗措置の中止又は発動の停止を行うものいたします。

当社取締役会は、上記決議を行った場合、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、速やかに情報開示いたします。

#### 大規模買付等の開始

買付者等は、上記からに規定する手続きを遵守するものとし、当社取締役会において対抗措置の不発動の決議がなされるまでは大規模買付等を開始することはできないものいたします。

#### (2) 本プランにおける対抗措置の具体的内容

当社取締役会が上記(1)に記載の決議に基づき発動する対抗措置としては、新株予約権の無償割当てを行うことといたします。

(3) 本プランの有効期間、廃止及び変更

本プランの有効期間は、平成29年6月開催予定の定時株主総会終結の時までといたします。

ただし、係る有効期間の満了前であっても、当社の株主総会において本プランの変更又は廃止の決議がなされた場合には、本プランは当該決議に従い、その時点で変更又は廃止されるものといたします。また、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本プランの廃止の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されるものといたします。

なお、当社取締役会は、会社法、金融商品取引法、その他の法令若しくは金融商品取引所規則の変更又はこれらの解釈・運用の変更、又は税制、裁判例等の変更により合理的に必要と認められる範囲で独立委員会の承認を得たうえで、本プランを修正し、又は変更する場合があります。

当社は、本プランが廃止又は変更された場合には、当該廃止又は変更の事実及び（変更の場合には）変更内容その他当社取締役会が適切と認める事項について、速やかに情報開示いたします。

4) 本プランの合理性

(1) 買収防衛策に関する指針の要件を全て充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を全て充足しており、かつ、企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容にも準じております。

(2) 当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上の目的をもって継続されていること

本プランは、当社株式等に対する大規模買付等がなされた際に、当該大規模買付等に応じるべきか否かを株主の皆様がご判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や期間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって継続されたものです。

(3) 株主意思を重視するものであること

当社は、本プランを平成26年6月27日開催の当社第61回定時株主総会において、株主の皆様のご承認をいただき継続いたしました。上記3)(3)に記載のとおり、その後の当社株主総会において本プランの変更又は廃止の決議がなされた場合には、本プランも当該決議に従い変更又は廃止されることとなります。従いまして、本プランの継続及び廃止には、株主の皆様のご意思が十分反映される仕組みとなっております。

(4) 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、当社取締役会の恣意的判断を排除するため、対抗措置の発動等を含む本プランの運用に関する決議及び勧告を客観的に行う当社取締役会の諮問機関として独立委員会を設置いたします。

独立委員会は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している、当社の社外取締役、社外監査役又は社外の有識者（実績のある会社経営者、官庁出身者、弁護士、公認会計士若しくは学識経験者等）から選任される委員3名以上により構成されます。

また、当社は、必要に応じ独立委員会の判断の概要について株主の皆様へ情報開示を行うこととし、当社の企業価値・株主共同の利益に資するよう本プランの透明な運営が行われる仕組みを確保しております。

(5) 合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、上記3)(1)に記載のとおり、合理的かつ客観的な発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しております。

(6) デッドハンド型若しくはスローハンド型買収防衛策ではないこと

上記3)(3)に記載のとおり、本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により、いつでも廃止することができるものとされております。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させても、なお発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社取締役の任期は1年であり、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成を一度に変更することができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、4億35百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、Broomco (3554) Limitedを含む14社を連結子会社としたことに伴い、海外食料品事業において494名増加しております。

なお、従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であります。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、Broomco (3554) Limitedを含む14社を連結子会社としたことに伴う主要な設備の増加は、次のとおりであります。

平成28年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び 運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
Chaucer Foods UK Limited	Hull Factory (英国)	海外食料品 事業	パン 生産設備	-	217	-	-	-	217	89
Chaucer Foods SAS	Chaucer Foods SAS (フランス共和国)	"	フリーズ ドライ食品 生産設備	58	391	-	-	-	449	120
Chaucer Foods Inc	Forest Grove Factory (アメリカ合衆国)	"	"	-	1,736	-	328	-	2,065	84
Chaucer Foods (Qingdao) Co Limited	Huangdao Factory (中華人民共和国)	"	"	-	107	-	-	4	112	71

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	116,000,000
計	116,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	38,277,406	38,277,406	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	38,277,406	38,277,406		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
自平成28年10月1日 至平成28年12月31日		38,277		3,502		6,409

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 2,329,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 35,626,000	35,626	-
単元未満株式	普通株式 322,406	-	-
発行済株式総数	38,277,406	-	-
総株主の議決権	-	35,626	-

【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） 株式会社永谷園 ホールディングス	東京都港区西新橋 二丁目36番1号	2,329,000	-	2,329,000	6.08
計	-	2,329,000	-	2,329,000	6.08

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	8,083	8,068
受取手形及び売掛金	9,960	17,339
商品及び製品	4,055	4,775
仕掛品	647	1,344
原材料及び貯蔵品	4,394	4,594
その他	1,865	2,425
貸倒引当金	13	50
流動資産合計	28,994	38,498
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	18,056	18,067
減価償却累計額	10,785	11,174
建物及び構築物（純額）	7,271	6,892
機械装置及び運搬具	15,173	21,920
減価償却累計額	11,253	15,346
機械装置及び運搬具（純額）	3,919	6,573
土地	11,407	11,287
リース資産	2,326	2,547
減価償却累計額	1,203	1,153
リース資産（純額）	1,122	1,394
建設仮勘定	27	103
その他	2,197	2,417
減価償却累計額	1,714	1,905
その他（純額）	483	512
有形固定資産合計	24,232	26,764
<b>無形固定資産</b>		
のれん	5,833	12,695
その他	176	183
無形固定資産合計	6,009	12,878
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	9,978	10,871
その他	1,980	2,266
貸倒引当金	103	102
投資その他の資産合計	11,855	13,035
<b>固定資産合計</b>	42,097	52,678
<b>資産合計</b>	71,092	91,176

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,494	9,733
短期借入金	9,763	15,586
1年内償還予定の社債	5,000	-
未払法人税等	753	1,239
賞与引当金	592	300
資産除去債務	11	3
その他	7,015	9,690
流動負債合計	30,630	36,551
固定負債		
社債	-	10,000
長期借入金	7,665	9,039
役員退職慰労引当金	31	44
退職給付に係る負債	475	506
資産除去債務	236	236
その他	2,449	3,299
固定負債合計	10,858	23,125
負債合計	41,488	59,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,502	3,502
資本剰余金	6,331	6,331
利益剰余金	23,704	25,273
自己株式	2,070	2,079
株主資本合計	31,467	33,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,344	2,208
土地再評価差額金	3,429	3,429
為替換算調整勘定	228	184
退職給付に係る調整累計額	96	58
その他の包括利益累計額合計	1,953	1,463
非支配株主持分	88	65
純資産合計	29,603	31,499
負債純資産合計	71,092	91,176

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	60,370	61,246
売上原価	32,404	32,621
売上総利益	27,966	28,624
販売費及び一般管理費		
販売促進費	9,530	9,577
賞与引当金繰入額	164	177
退職給付費用	150	221
その他	15,158	14,985
販売費及び一般管理費合計	25,004	24,961
営業利益	2,961	3,663
営業外収益		
受取利息	3	15
受取配当金	118	118
持分法による投資利益	-	51
為替差益	7	146
不動産賃貸料	103	75
その他	93	110
営業外収益合計	325	517
営業外費用		
支払利息	131	121
社債発行費	-	62
その他	130	149
営業外費用合計	261	332
経常利益	3,025	3,848
特別利益		
補助金収入	-	11
特別利益合計	-	11
特別損失		
固定資産売却損	-	10
減損損失	289	196
投資有価証券評価損	-	34
会員権売却損	7	-
店舗閉鎖損失	8	14
特別損失合計	305	256
税金等調整前四半期純利益	2,720	3,602
法人税等	1,199	1,465
四半期純利益	1,521	2,137
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,520	2,125

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	1,521	2,137
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62	865
土地再評価差額金	32	-
為替換算調整勘定	4	44
退職給付に係る調整額	101	37
持分法適用会社に対する持分相当額	-	368
その他の包括利益合計	66	490
四半期包括利益	1,454	2,627
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,451	2,615
非支配株主に係る四半期包括利益	3	12



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,720	3,602
減価償却費	1,406	1,489
減損損失	289	196
のれん償却額	303	259
その他の償却額	42	60
貸倒引当金の増減額(は減少)	3	3
賞与引当金の増減額(は減少)	315	292
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	11	12
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	127	102
受取利息及び受取配当金	121	133
支払利息	131	121
社債発行費	-	62
持分法による投資損益(は益)	-	51
有形固定資産除売却損益(は益)	36	38
投資有価証券売却損益(は益)	0	0
投資有価証券評価損益(は益)	0	34
補助金収入	-	11
その他の営業外損益(は益)	16	60
売上債権の増減額(は増加)	1,777	6,206
たな卸資産の増減額(は増加)	734	1,479
仕入債務の増減額(は減少)	70	872
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	87	1,036
未払消費税等の増減額(は減少)	62	331
その他の資産・負債の増減額	44	369
小計	3,256	2,367
利息及び配当金の受取額	119	135
利息の支払額	135	132
法人税等の支払額	1,016	1,169
法人税等の還付額	72	189
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,296	1,391

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	18	18
定期預金の払戻による収入	24	24
有形及び無形固定資産の取得による支出	1,334	1,519
有形固定資産の売却による収入	51	54
投資有価証券の取得による支出	153	9
投資有価証券の売却による収入	0	0
関係会社貸付けによる支出	363	23
関係会社貸付金の回収による収入	-	28
関係会社出資金の払込による支出	-	179
子会社株式の取得による支出	-	40
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	-	2 10,937
短期貸付金の回収による収入	9	2
保険積立金の解約による収入	19	2
差入保証金の差入による支出	56	129
差入保証金の回収による収入	55	114
補助金の受取額	-	425
その他	1	84
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,767</b>	<b>12,290</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	628	7,348
社債の発行による収入	-	9,937
社債の償還による支出	-	5,000
長期借入れによる収入	1,296	3,000
長期借入金の返済による支出	991	3,493
ファイナンス・リース債務の返済による支出	327	306
自己株式の純増減額(は増加)	4	8
配当金の支払額	505	511
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,160</b>	<b>10,965</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	75
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	643	8
現金及び現金同等物の期首残高	8,187	8,075
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	14	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 7,557	1 8,066

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第3四半期連結会計期間より、Broomco (3554) Limitedを含む14社を新たに連結の範囲に含めております。

なお、支配獲得日を当第3四半期連結会計期間末とみなしているため、貸借対照表のみを連結してしております。

また、当該連結の範囲の変更は、当第3四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えることが認められ、連結貸借対照表の総資産及び負債の増加を見込んでおります。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
現金及び預金勘定	7,559百万円	8,068百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2	2
現金及び現金同等物	7,557	8,066

- 2 当第3四半期連結累計期間に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の内訳  
株式の取得により新たにBroomco (3554) Limitedを含む14社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにBroomco (3554) Limited株式の取得価額とBroomco (3554) Limited取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	5,599 百万円
固定資産	3,047
のれん	7,122
流動負債	3,387
固定負債	7,267
為替換算調整勘定	110
非支配株主持分	165
新規連結子会社の株式の取得価額	5,170
新規連結子会社の現金及び現金同等物	1,040
支配獲得日からみなし取得日までの間に実行された当該会社に対する貸付金	6,807
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	10,937

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	278	7.75	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	278	7.75	平成27年9月30日	平成27年12月10日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	278	7.75	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年11月4日 取締役会	普通株式	278	7.75	平成28年9月30日	平成28年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	52,172	-	8,198	60,370	-	60,370
セグメント間の内部売上高又は 振替高	9	-	5	14	14	-
計	52,182	-	8,203	60,385	14	60,370
セグメント利益又はセグメント 損失( )	3,137	-	99	3,038	76	2,961

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失の調整額 76百万円については、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「中食その他事業」セグメントにおいて289百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	53,150	-	8,096	61,246	-	61,246
セグメント間の内部売上高又は 振替高	6	-	3	9	9	-
計	53,157	-	8,099	61,256	9	61,246
セグメント利益又はセグメント 損失( )	3,994	-	47	3,946	282	3,663

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失の調整額 282百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 282百万円、セグメント間取引消去0百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、Broomco (3554) Limitedを含む14社を連結子会社としたことに伴い、報告セグメントを従来の「食料品事業」及び「中食その他事業」の2区分から、「国内食料品事業」、「海外食料品事業」及び「中食その他事業」の3区分に変更しております。また、報告セグメントの利益の算定方法について、従来「食料品事業」に区分しておりました当社(持株会社)に係る全社費用を各報告セグメントに配分しない方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間より、Broomco (3554) Limitedを含む14社を連結子会社としたことに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「海外食料品事業」において15,757百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「中食その他事業」セグメントにおいて108百万円、報告セグメントに配分されない全社資産において88百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間に、Broomco (3554) Limitedを含む14社を連結子会社としたことに伴い、「海外食料品事業」セグメントにおいて、のれんが7,122百万円増加しております。

なお、のれんの金額につきましては取得原価の配分が完了していないため、暫定的に計算された金額であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 Broomco (3554) Limited  
事業の内容 持株会社

(2) 企業結合を行った主な理由

英国を本拠とし、世界各地にグローバルな販売チャネルと生産拠点を持つフリーズドライ食品及びパン製品メーカーであるChaucer Food Groupの親会社であるBroomco (3554) Limitedの株式を取得することで、Chaucer社の海外における豊富な経営資源と当社グループが長年培ってきた製造ノウハウを融合させ、グループ全体での海外事業の拡大・強化を図るためであります。

(3) 企業結合日

平成28年12月9日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

(5) 結合後企業の名称

結合後の企業の名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 0%  
企業結合日に取得した議決権比率 60%  
取得後の議決権比率 60%

当社がBroomco (3554) Limitedの発行済株式の全てを取得した後に、株式会社産業革新機構にその40%に相当する株式を譲渡いたしました。

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末としているため、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	5,170百万円
取得原価		5,170

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用	120 百万円
デューデリジェンス費用	138
その他	77
取得関連費用	336

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

7,122百万円

なお、のれん金額につきましては取得原価の配分が完了していないため、暫定的に計算された金額であります。

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力によるものです。

(3) 償却方法及び償却期間

効果の発現する期間にわたって均等償却いたします。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	42円27銭	59円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,520	2,125
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,520	2,125
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,956	35,949

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成29年1月20日開催の取締役会において、平成28年7月15日開催の取締役会で決議されました「中華人民共和国における合併会社設立」の中止を決定いたしました。

1. 中止の理由

当社グループ・上海永谷園食品貿易有限公司(非連結子会社)にて、中国国内での麵事業拡大に向けて、本件を推進してまいりました。

一方で、直近におけるBroomco (3554) Limitedの買収により、欧米における事業拡大も並行して見込まれることとなったため、今後は欧米事業に注力し、中国国内における麵事業拡大に向けた取り組みを、当面見合わせることにいたしました。

2. 業績に与える影響

本件の中止による当社業績への影響は精査中であります。

3. 今後の見通し

当社グループ内における中国国内での麵事業に関しましては、本件の中止を含め、再度今後の方向性と位置づけを検討してまいります。

## 2【その他】

平成28年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| (1) 中間配当による配当金の総額     | 278百万円     |
| (2) 1株当たりの金額          | 7円75銭      |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成28年12月9日 |

(注)平成28年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払いを行いました。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月13日

株式会社永谷園ホールディングス

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 玉井 哲史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐野 康一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社永谷園ホールディングスの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社永谷園ホールディングス及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。